



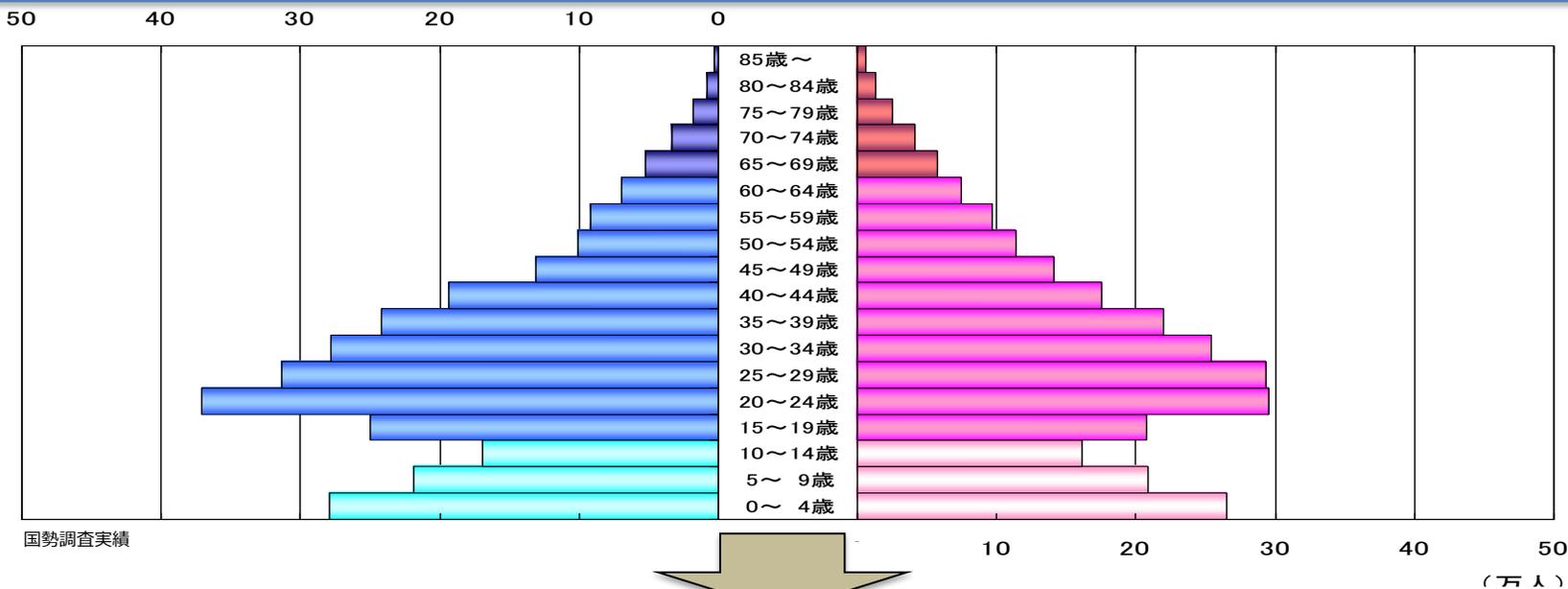
エイジフレンドリーシティに関する 神奈川県の実践

2017年12月4日

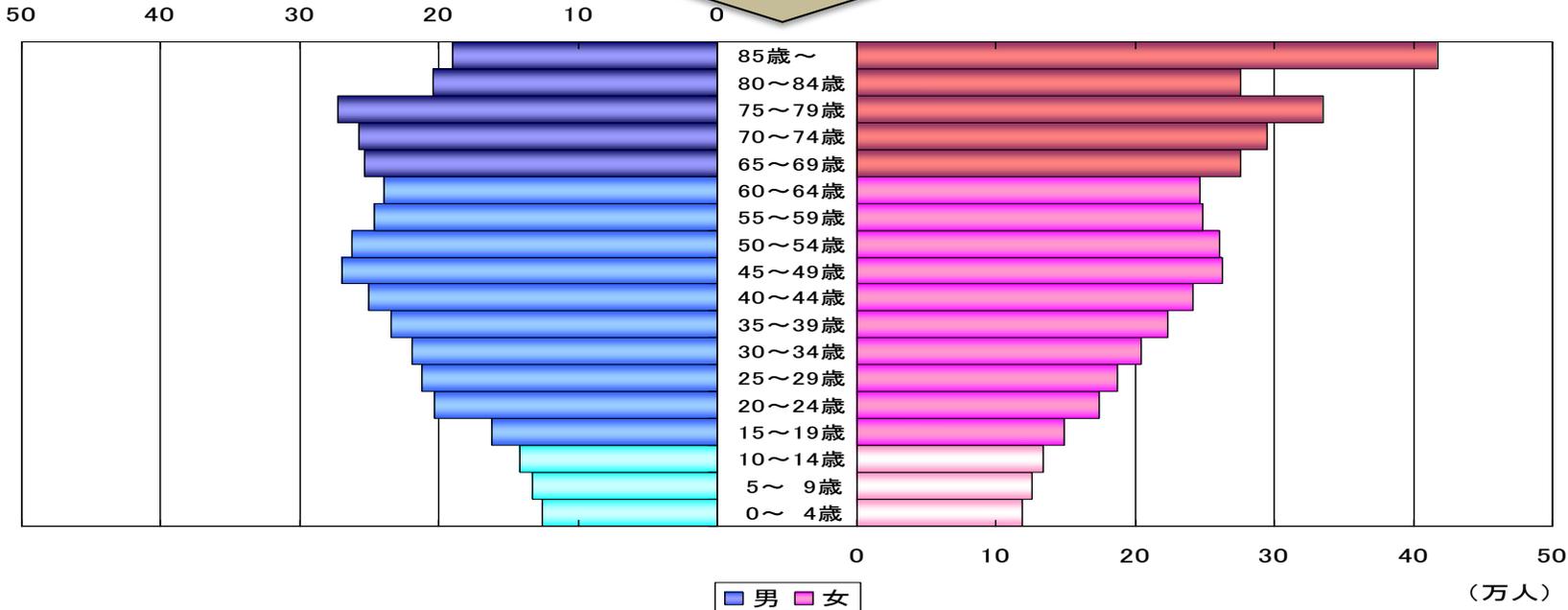
神奈川県政策局ヘルスケア・ニューフロンティア推進本部室

超高齢社会の到来

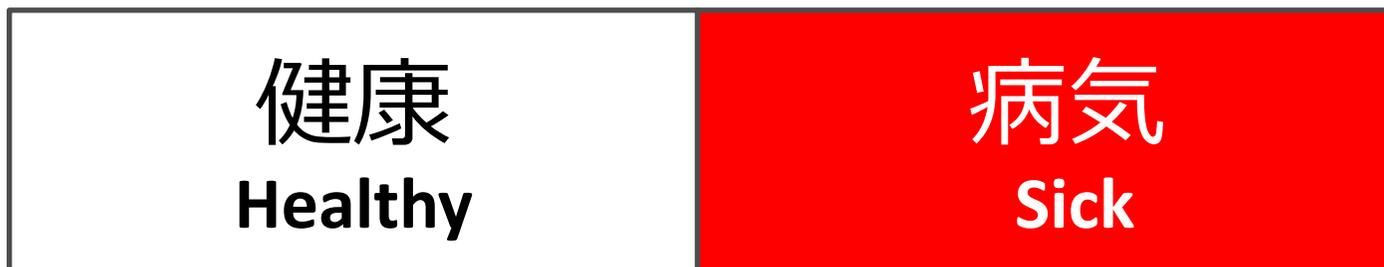
1970年



2050年



未病とは / What is ME-BYO

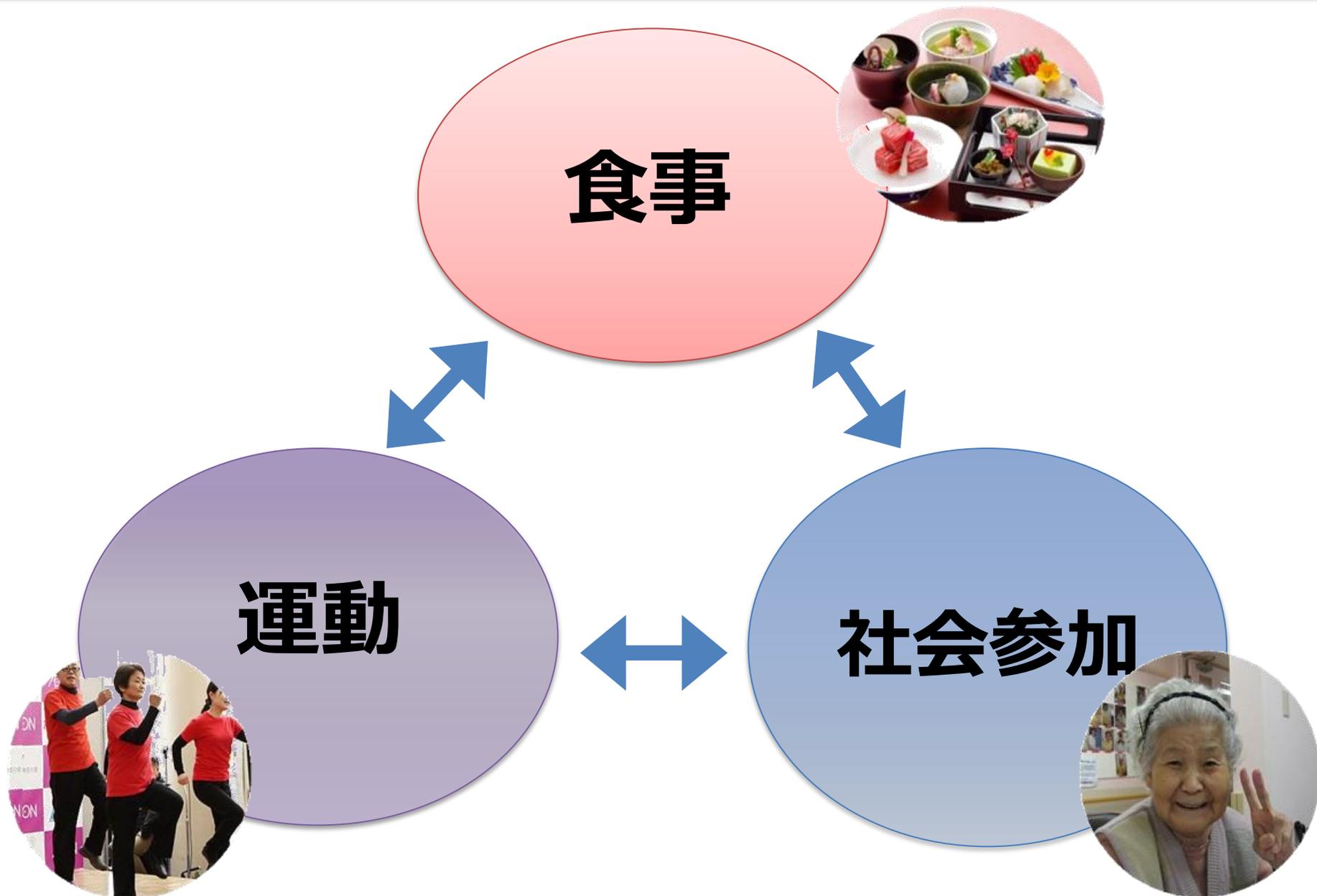


「健康・医療戦略」（抜粋）（平成29年2月17日閣議決定）

健康か病気かという二分論ではなく健康と病気を連続的に捉える「未病」の考え方などが重要

（注2）未病とは、健康と病気を「二分論」の概念で捉えるのではなく、心身の状態は健康と病気の間を連続的に変化するものとして捉え、この全ての変化の過程を表す概念である。

未病を改善する3つの取組み



最先端医療・最新技術の追求

iPS細胞研究



ロボット医療機器



マイME-BYOカルテ



個別化医療の実現

未病の改善

医食農同源



運動習慣奨励



等

ライフスタイルの見直し

2つのアプローチを融合

健康寿命日本一 新たな市場・産業の創出



未病指標構築などに向けた
「ME-BYO未来戦略ビジョン」を採択



2016年10月 ジュネーブ
マーガレット・チャン事務局長と黒岩知事との面談



2016年10月 神奈川県
WHOによる県内市町村向けエイジフレンドリーシティについての説明会



2017年4月 神奈川県
アサモア・バー事務局次長による表敬訪問

- セミナー・シンポジウムなど



- 神奈川県からWHOへの職員派遣



WHO本部
エイジング・アンド・ライフコース



神奈川県

全国でも一,二を争うスピードで高齢化が進む神奈川県

33市町村で構成されている神奈川県

○19市、13町、1村

最も人口が多い市町村

⇒ 横浜市 370万人

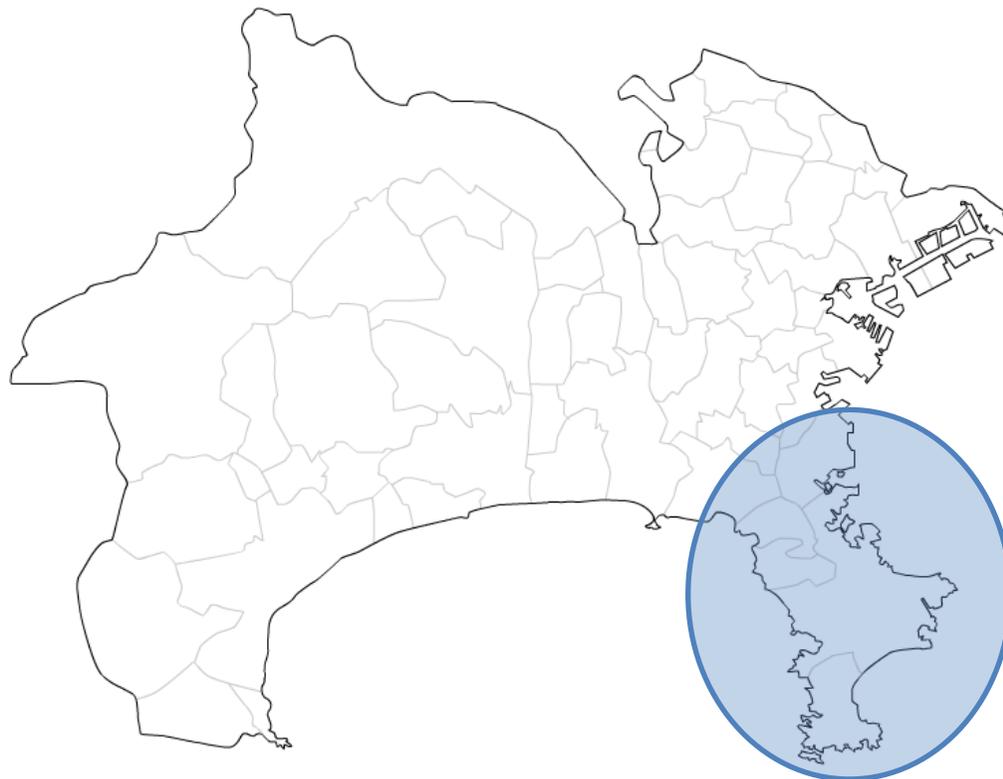
最も人口が少ない市町村

⇒ 清川村 3,000人



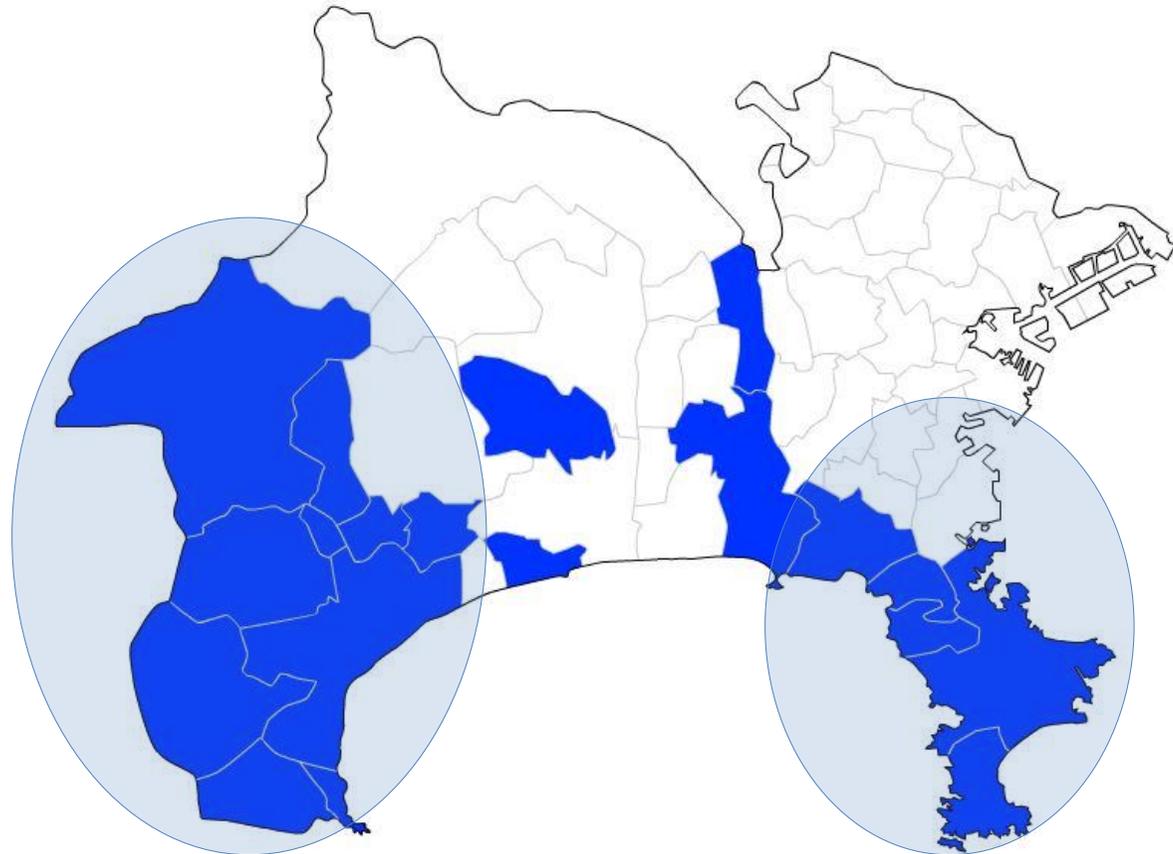
(神奈川県的人口 : 910万人)

三浦半島4市1町：横須賀市、葉山町、鎌倉市、逗子市、三浦市



平成27年11月に開催した第5回三浦半島サミットにおいて、保健福祉分野で連携しながら健康寿命の延伸と生活の質の向上をめざし、「未病を改善する半島宣言」を採択した。

県内の19市町※がエイジフレンドリーシティに参加を決定



※19市町：横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町、大和市、藤沢市、伊勢原市、大磯町、小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町

WHOエイジフレンドリーシティ参加承認証明書授与セレモニー

19市町がWHOの「エイジフレンドリーシティ」に参加





19市町の高齢化状況

(2017年1月現在)	総人口 (人)	65歳以上 (人)	65歳以上の割合 (%)
神奈川県	9,147,400	2,220,248	24.5
横須賀市	403,383	122,568	30.5
鎌倉市	172,279	53,384	31.1
逗子市	57,598	18,168	31.6
三浦市	44,446	16,449	37.0
葉山町	32,053	9,989	31.8
大和市	234,138	54,932	23.6
藤沢市	427,199	102,100	23.9
伊勢原市	101,812	25,298	25.0
大磯町	31,522	10,277	33.3
小田原市	193,245	55,106	28.7
南足柄市	42,839	13,058	30.5
中井町	9,596	3,135	32.7
大井町	16,927	4,568	27.0
松田町	11,018	3,549	32.2
山北町	10,375	3,787	36.5
開成町	17,349	4,392	25.4
箱根町	11,648	4,194	36.8
真鶴町	7,144	2,847	39.9
湯河原町	24,621	9,933	40.6
合計	1,849,192	517,734	28.0



BiOTOP!A
me-byo valley

2018年春、未病いやしの里センター（仮称）をオープン予定

“健康バス” ～東海大学と連携～



血圧計



体組成



動脈硬化



骨密度計

住民の健康意識を高めるため、
血圧計や骨密度計を積んだバスが地域を巡回

～東海大学と連携～

見える化

ロコミル (ロコモチェック)



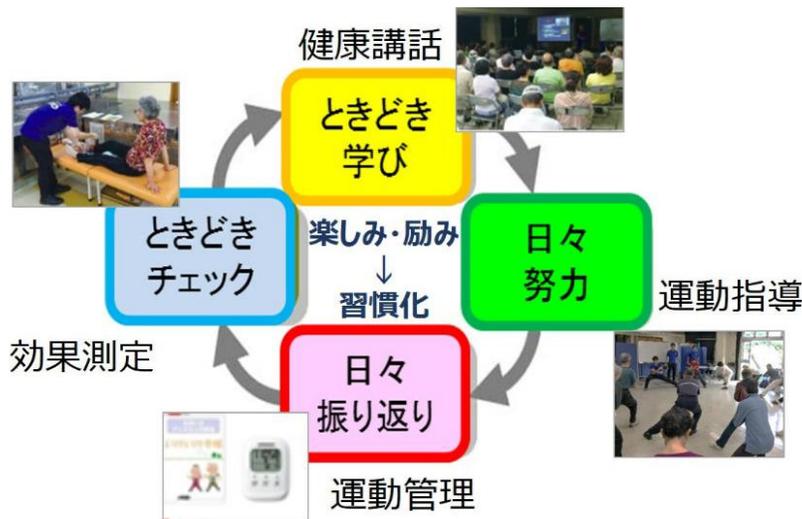
■ロコモティブシンドロームの評価『ロコミル』

測定項目

- ・立ち上がりテスト (脚力)
- ・2ステップテスト (歩行能力)
- ・ロコモ25 (生活状況)
- ・下肢筋力測定 (下肢筋力)

個別化

アンチロコモ教室



■個人ごとの健康や身体状態に合わせた運動プログラムを提供

- ◆ 部局横断的な協力：地域県政総合センター等との連携
 - センター主催の市町村との会議の場を活用
 - 市町村連携の枠組み（三浦半島サミット等）を活用

- ◆ 市町村の取組みをWHOに紹介
 - ジョン・ベアードWHOエイジング・アンド・ライフコース部長の来日時に大磯町のロコモプロジェクトを視察



課題：市町村への具体的なメリットの提示

(県から提示したメリット)

- ・ WHOの提唱するトピックに基づく高齢者施策の推進
- ・ 高齢者に優しい都市であることの住民へのアピール
- ・ 高齢者向けサービス等の産業振興の促進
- ・ 国際的ネットワークの構築、国際的発信及び企業の海外展開支援
- ・ 海外企業（高齢者向けサービス等）の誘致促進

- ◆ 言葉の壁を排除
 - WHOの資料を和訳、市町村の申請関係書類を英訳
- ◆ 高齢者に優しい地域づくりのサポート
 - 行動計画作りへのアドバイス
- ◆ 市町村とWHOとの架け橋
 - 市町村による先進的な取組みを広めるためのサポート



**神奈川県は県内全ての市町村が
エイジフレンドリーシティへ参加すること、
そして、神奈川がネットワークのハブとなることを目指していきます。**